

プロジェクトリーダー：愛知工業大学 工学部 益尾孝祐准教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名 リノベーションまちづくりの推進とまちづくり拠点の設置

(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)

本プロジェクトでは以下の4つの成果が得られた。

【4棟の遊休不動産化した建物のリノベーション支援】

2021年度、2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにより、尾張瀬戸エリアを対象に、4物件のリノベーション事業を支援し、歴史的建造物の長屋を活用した本屋「ひとしずく」の実現、歴史的建造物である瀬戸物問屋の建物のリノベーション活動支援、歴史的建造物の旅館「松千代館」のまちづくり拠点としての再生、「瀬戸くらし研究所」のリノベーション活動支援を実践した。



本屋「ひとしずく」(リノベ支援2021)



瀬戸くらし研究所 (リノベ支援2022)



梅村商店 (リノベ支援2021)



松千代館 (再生事業2021・2022)

【尾張瀬戸エリアを対象とした授業と報告会の開催】

愛知工業大学建築学科3年生を対象とした授業において、尾張瀬戸の地域が抱える様々な課題解決に向けたまちづくりの提案を取りまとめ、市民向けの報告会を2回開催した。



報告会の様子 (2021年3月)



報告会の様子 (2022年10月)

【まちづくり拠点「松千代館」の開設と運営の充実】

長く空き旅館となってきた、末広商店街の発祥と言われている歴史的建造物の旅館「松千代館」をまちづくり拠点として整備を推進。まちづくり拠点として、1階を貸し会議室やギャラリー利用、2階を学生シェアハウスとして整備した。整備資金を確保するため、クラウドファンディングを実施した。2021年10月から学生シェアハウス及びまちづくり拠点を開設しており、2022年度は、1階の運営の充実、内部空間のDIY整備を推進した。



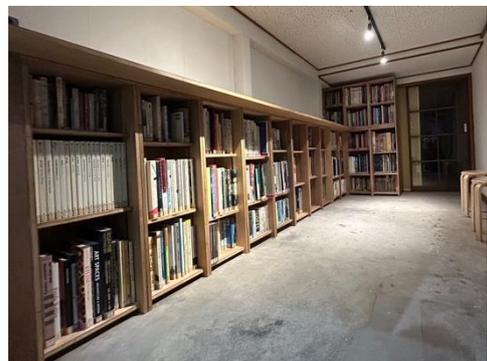
学生シェアハウスの入居者



店舗活用の様子



本棚のDIY工事の様子



まちづくり拠点のDIY整備

【岩屋堂公園における空き店舗を活用した学生チャレンジカフェの実現】

2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにおいて、瀬戸市の岩屋堂公園にて、空き店舗を活用した学生チャレンジカフェを年間通じて運営した。長期運営として、春の社会実験、夏の運営、秋の運営を実施し、4月から11月までの隔週の土日で運営を実施した。合計66日間開催し、岩屋堂公園のプレイスメイキングを推進した。



岩屋堂公園を活用した学生チャレンジカフェ



岩屋堂プロジェクトの企画会議

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

2021 年度～	<p>3棟の歴史的建造物のリノベーションプロジェクト支援 尾張瀬戸エリアを対象に、3物件のリノベーション事業を支援し、歴史的建造物の長屋を活用した本屋「ひとしずく」の実現、歴史的建造物である瀬戸物問屋の建物のリノベーション活動支援、歴史的建造物の旅館「松千代館」のまちづくり拠点としての再生を実践した。</p> <p>まちづくり拠点「松千代館」の開設 長く空き旅館となってきた、末広商店街の発祥と言われている歴史的建造物の旅館「松千代館」をまちづくり拠点として整備を推進。まちづくり拠点として、1階を貸し会議室やギャラリー利用、2階を学生シェアハウスとして整備した。整備資金を確保するため、クラウドファンディングを実施した。2021年10月から学生シェアハウス及びまちづくり拠点を開設している。</p> <p>尾張瀬戸エリアを対象とした授業と報告会の開催 愛知工業大学建築学科3年生を対象とした授業「空間設計Ⅰ」にて、尾張瀬戸の地域が抱える様々な課題解決に向けたまちづくりの提案を「地区再生計画」と題して取りまとめた。また、卒業論文や卒業設計で同地区を対象とした調査提案も含めて、市民向けの学生報告会を開催した。</p>
2022 年度～ 2022 年 04 月～ 2022 年 06 月 2022 年 10 月～ 2022 年 04 月～ 2022 年 05 月～ 2022 年 08 月～ 2022 年 10 月～ 2022 年 07 月	<p>2022年度からは以下の3つのプロジェクトを中心に瀬戸市におけるリノベーションまちづくりを推進した。</p> <p>① まちづくり拠点として整備した松千代館の運営充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 松千代館2階の学生シェアハウスに関しては、2021年度に引き続き、6名の学生が入居しており、安定運営を行なっている。5年を目処に借入金額の返還を想定。 松千代館1階の貸し会議室や貸し店舗としての運営環境を向上させるため、照明設備の追加、店舗入り口の建具デザインの変更を実施。また、まちづくり拠点としての居場所環境の充実として、貸しギャラリー空間のリノベーションを推進 1階の貸し会議室や貸店舗などの利用も段階的に増えており、特に商店街のイベントとの連携が充実してきている。 学生による本棚やカウンター的设计・DIY工事を実施した。 <p>② 岩屋堂公園における学生チャレンジカフェによる空き店舗の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩屋堂公園内の空き店舗を、店舗オーナーと連携して、学生チャレンジカフェとして再生するプロジェクト メニュー開発や会計処理、SNSでの呼びかけ、サインや看板の制作、テーブルや椅子のDIYなど、開店準備を実施。 GWに1週間程度イベントとして開催し、その後隔週で週末営業を行なった。 夏休み期間やライトアップが行われる秋の紅葉祭り期間に2週間程度連続営業を実施した。 <p>③ 瀬戸くらし研究所のリノベーション支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 末広通り商店街にて新たにオープンする瀬戸くらし研究所の事業検討ワークショップに研究室として参画し、リノベーションを支援した。

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

- 日本遺産でもある尾張瀬戸の街並みを構成する歴史的建造物は尾張瀬戸市において重要な資産であるが、家族継承ができず、空き家化することで年々減少傾向にある。これらの歴史的建造物をしっかり保全する仕組みづくりが都市計画や文化資源マネジメントにおいて今後益々重要となる。
- 2022年度は、①まちづくり拠点として整備した松千代館の運営の充実、②岩屋堂公園における学生チャレンジカフェによる空き店舗の運営、③瀬戸くらし研究所のリノベーション支援の3つの取り組みを中心に、本事業を推進した。
- 継続的な空き家活用のためには、地域で空き家再生、空き家活用を相談できる体制が必要である。現在、尾張瀬戸地区では、多様な空き家再生と活用の担い手が発生しており、産官学の連携による空き家相談のプラットフォームの構築を推進していくことが望まれる。
- シェア産業、アート産業、宿泊産業、飲食サービス業など、遊休不動産化した歴史的建造物の空き家に多様な介入産業が展開し始めている。尾張瀬戸エリアでのこれらの介入産業の連携や空き家活用を推進していく仕組みを構築することが期待される。

2 活動写真



松千代館入居者 2021年度



松千代館入居者 2022年度



商店街イベント時の店舗活用



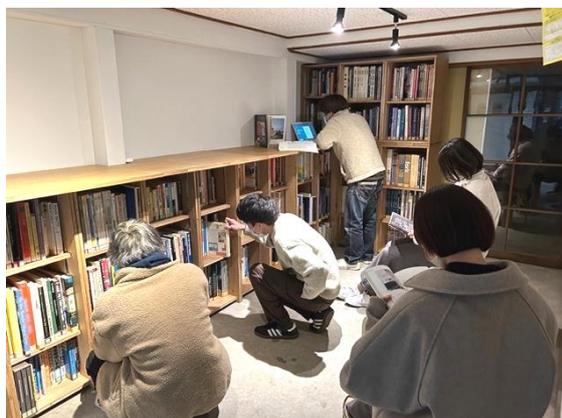
新規出店のためのチャレンジ活用



商店街イベントへの学生の参加



イベント時の学生によるお茶のサービス



ギャラリースペースのDIYでの充実



瀬戸まち歩きの実践

2 活動写真



2022年度秋の営業の様子 昼



2022年度秋の営業の様子 夜



2022年度夏の営業の様子



2022年度夏の営業の様子



カフェの家具製作



カフェの設営の様子



カフェの設営準備



カフェの設営準備

学生シェアハウスから始まる「まちびらき」

松知工業大学の学生がシェアハウスに住み、同時に、松千代館を主体的に地域に開きます。商店街の賑わいづくりに貢献していきける場所として運営していきます。

松千代館再生プロジェクト

松知工業大学の学生がシェアハウスに住み、同時に、松千代館を主体的に地域に開きます。商店街の賑わいづくりに貢献していきける場所として運営していきます。

松千代館

松知工業大学の学生がシェアハウスに住み、同時に、松千代館を主体的に地域に開きます。商店街の賑わいづくりに貢献していきける場所として運営していきます。

商店街との繋がりを考える

- 作員は活動することで、まちづくりの姿も活動が「まちづくり」になる。
- ワークショップなどにより、関係性を築く。
- 学生が、歴史の学習を通じて、まちづくりの意義を学ぶ。
- 学生が、歴史の学習を通じて、まちづくりの意義を学ぶ。

1階はシェアスペースとして、地域の文化やまちづくりを学ぶことができます。

2階は学生前住のシェアハウスとして、地域の文化やまちづくりを学ぶことができます。

概要①/クラフトファンディングの活用

松千代館の再生に際し、クラウドファンディングを活用し、再生費用の一部を募集しました。

再生期間：2021年10月1日～2022年3月31日

再生金額：281万7000円

再生期間：2021年10月1日～2022年3月31日

再生金額：281万7000円

概要②/松千代館の現状

松千代館は、松知工業大学の学生がシェアハウスとして活用しています。

再生期間：2021年10月1日～2022年3月31日

再生金額：281万7000円

作りながら暮らす

松千代館は、松知工業大学の学生が中心となり、2021年3月より再生作業を開始しました。

再生期間：2021年3月～2022年3月

再生金額：281万7000円

プロジェクト参加者

松千代館再生プロジェクトに参加した学生と教員の名簿です。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11				

概要③/松千代館再生チーム

松千代館再生チームは、松千代館の再生を推進するためのチームです。

再生期間：2021年10月1日～2022年3月31日

再生金額：281万7000円

RENOVATION&DIY

PROCESS

LIVING

まちづくり拠点として整備した松千代館の運営充実

空き空間の活用を通じたプレイスメイキング

愛知工業大学の近隣地域である、瀬戸市岩屋堂公園、高蔵寺ニュータウンなどの地域の衰退が課題となっているエリアを対象に、学生による空き空間の活用をきっかけとして地域の価値を再生する「プレイスメイキング」の実験を目指す。

社会実験の様子



高蔵寺ナイトプラット

ニュータウンの衰退した再生のための社会実験
 存続するための認知度向上の課題がある高蔵寺。高蔵寺ニュータウンに近いことから、高蔵寺は都市化が進む可能性がある。以前のような活気を取り戻すために、Kazoji PLATが企画されたイベントを行う。高蔵寺の再興を目指している。学生やボランティアに参加し、衰退した高蔵寺、高蔵寺ニュータウンの賑わいを取り戻す。高蔵寺までの高蔵寺プラットの家の社会実験で、地域の活性化の中心となるように活動の場をDITによる屋台やテラス、イスを制作した。



ナイトプラットの様子



CONCEPT

人口減少社会に移行し、多くの地域社会の衰退が課題となっている。空き家や空き店舗などの活用されていない空き空間の増加である。本プロジェクトでは岩屋堂公園を学生が中心となってカフェの運営を行い岩屋堂公園の賑わい作りにつなげる。

岩屋堂プロジェクト

令和4年度実施

空き空間の活用を通じたプレイスメイキング

人口減少社会に移行し、多くの地域社会の衰退が課題となっている。空き家や空き店舗などの活用されていない空き空間の増加である。しかし近年、このような空き空間を活用することを地域再生のきっかけとする取り組みが各地で展開されており、その様な場所の価値を再生する取り組みは、「プレイスメイキング」と呼ばれている。本学生チャレンジでは、愛知工業大学の近隣地域である、瀬戸市岩屋堂公園、瀬戸市北町商店街、高蔵寺ニュータウンなどの地域の衰退が課題となっているエリアを対象に、学生による空き空間の活用をきっかけとして地域の価値を再生する「プレイスメイキング」の実験を目指す。

実施場所

1. 岩屋堂公園



2. 高蔵寺駅



瀬戸市には多くの愛知国際化地域の発展が期待されている。高蔵寺ニュータウンに近いことから、高蔵寺は都市化が進む可能性がある。以前のような活気を取り戻すために、Kazoji PLATが企画されたイベントを行う。高蔵寺の再興を目指している。学生やボランティアに参加し、衰退した高蔵寺、高蔵寺ニュータウンの賑わいを取り戻す。高蔵寺までの高蔵寺プラットの家の社会実験で、地域の活性化の中心となるように活動の場をDITによる屋台やテラス、イスを制作した。

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
岩屋堂	3期工務体各棟 4/29 - 5/5		6/19-19 6/25-26	7/19-17 7/20-31	8月の運営 8/18 - 27	9/3-4 9/17-18		3期工務体の運営 10/25 - 11/30		Kazoji PLAT
高蔵寺		ナイトプラット 5/27 - 6/3		Kazoji PLAT		Kazoji PLAT				

岩屋堂公園のプレイスメイキング

岩屋堂公園にある空き空間と周辺の公園整備を利用者を通じていきたい。高蔵寺駅までの高蔵寺プラットの家の社会実験で、地域の活性化の中心となるように活動の場をDITによる屋台やテラス、イスを制作した。

社会実験 / 準備

4月29日から5月5日まで7日間で1期目の社会実験を行った。この社会実験の目的としては、岩屋堂の現状把握、周辺の空き空間に活用するにどのようにしたいか、自分たちのSNSなどの存在で訪れる人の来るの姿を知るために、岩屋堂にアンケートを用いて検証した。岩屋堂は登山、ハイキングなどの活動を通して多く、夏には山遊び、秋には紅葉狩りなどで行われる。岩屋堂の現状把握である。登山などの人の流れを把握し、活用して利用してもらうように、テーブルやイスなどの整備を準備して活用して利用してもらう。



PROJECT

OVERVIEW

SCHEDULE

EXPERIMENT

岩屋堂公園における学生チャレンジカフェによる空き店舗の運営

cafe hironnelle
4/29 Fri - 5/5 Thu
11:00 AM ~ 6:00 PM
岩屋堂公園 × 学生

自然にのびのび空間で
スナックはかほは
通いませんか？

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします！

学生のチャレンジカフェを開催します。自然溢れる空間でピクニックができるネットを用意してお待ちしています。スナックやドリンクも用意しています。ぜひお越しください！

営業情報などの詳細は「イロツチルのインスタグラムをフォロー」

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。自然溢れる空間でピクニックができるネットを用意してお待ちしています。スナックやドリンクも用意しています。ぜひお越しください！

営業情報などの詳細は「イロツチルのインスタグラムをフォロー」

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。自然溢れる空間でピクニックができるネットを用意してお待ちしています。スナックやドリンクも用意しています。ぜひお越しください！

営業情報などの詳細は「イロツチルのインスタグラムをフォロー」

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

cafe hironnelle
8/17 (Thu) - 8/24 (Wed)
10:00 ~ 16:00
岩屋堂公園 × 学生

自然にのびのび空間で
スナックはかほは
通いませんか？

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。スナックの効いた焼き野菜カレーや、一杯一杯丁寧にハンドソープしたコーヒー、暑い夏にぴったりのめずサイダーなどをご用意してお待ちしております！

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。自然溢れる空間でピクニックができるネットを用意してお待ちしています。スナックやドリンクも用意しています。ぜひお越しください！

営業情報などの詳細は「イロツチルのインスタグラムをフォロー」

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

cafe hironnelle
11/11 (Sat) - 11/18 (Wed)
10:00 ~ 16:00
岩屋堂公園 × 学生

自然にのびのび空間で
スナックはかほは
通いませんか？

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。今回は紅葉祭りに合わせて夜間の運営も行います！温かいスープやハンドソープのコーヒー、季節のお菓子など用意しています。ぜひお越しください！

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

岩屋堂公園内の hironnelle【イロツチル】にて学生とコロナホして期間限定カフェをオープンします。自然溢れる空間でピクニックができるネットを用意してお待ちしています。スナックやドリンクも用意しています。ぜひお越しください！

営業情報などの詳細は「イロツチルのインスタグラムをフォロー」

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

学生カフェ cafe hironnelle

〒480-1215 愛知県瀬戸市岩屋町 67-1 岩屋堂公園内

瀬戸市コミュニティセンター(岩屋堂) 駐車場から徒歩 5分

岩屋堂公園における学生チャレンジカフェ 長期営業時 フライヤー

3 参考資料

PROJECT OVERVIEW

令和4年度実施

瀬戸ヴィーナス再生プロジェクト

愛知県瀬戸市の「せと末広町商店街」にある空き店舗「ヴィーナス」の再生プロジェクトに愛知工業大学の学生が参加しました。「ヴィーナス」の活用について、瀬戸市の分析、市民参加型のワークショップ出たアイデアからきんつき(株)と愛知工業大学の学生でリノベーション計画を作成しました。

スケジュール/瀬戸ヴィーナスの活用計画

活動内容	2022年				
	4月	5月	6月	7月	8月
	4/9 瀬戸リサーチ発表 4/23 ワークショップ	5/14 ワークショップ 5/28 ワークショップ	6/11/6/23 ワークショップ 6/17/6/21/6/28 設計プロセス会議	7/9 コンセプト発表 7/12 設計プロセス会議 7/23 使い方ワークショップ	クラウドファンディング掲載
当日の活動写真					

PLANNING

敷地/末広商店街とヴィーナスとの関係



昭和中期・後期多くのお客さんでにぎわっていた末広商店街、平成に入ると空き店舗が増え、客足が徐々に減のようになっていった。現在は、市が空き店舗活用を推進し、空き店舗活用が盛んに行われ、若者が運営するお店が増え、客足も徐々に回復しつつある。空き店舗となっていたヴィーナスを活用し、色々なものを繋ぐ地域の拠点として再生を目指す取り組みをスタートさせた。

ワークショップの様子



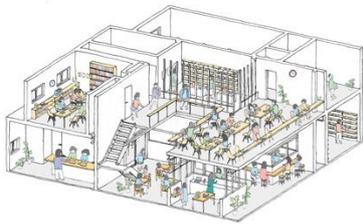
ワークショップの様子

地域住民の方々や、市役所職員、まちづくりに興味がある人、愛知工業大学の学生など様々な人々がワークショップに参加してくれました。瀬戸市の全体のことから、ワークショップが始まり、商店街、ヴィーナスの課題まで多くの意見がでました。6月からはこれらの意見よりヴィーナスの設計をきんつき(株)と愛知工業大学の学生で考えています。

トークイベント

ますきちオーナーの南さんや、瀬戸市役所職員、長久手市役所職員の方々に登壇してもらい、ヴィーナスの今後について語ってもらいました。

ヴィーナスリノベ イメージパース

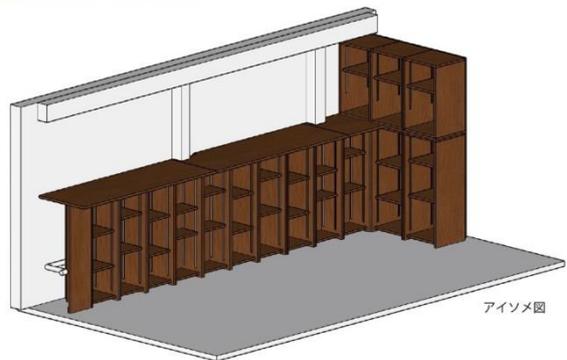


瀬戸くらし研究所のリノベーション支援

松千代館 本棚

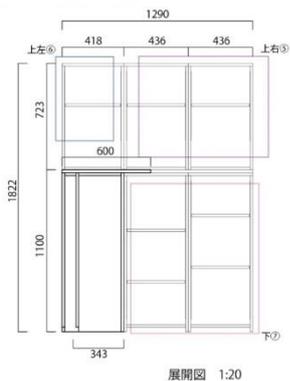


イメージパース



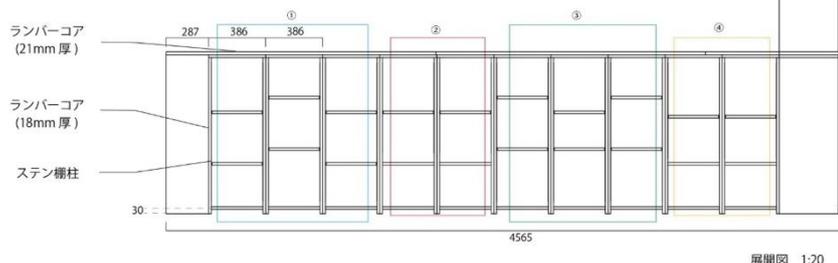
アイソメ図

収納冊数 約 550 冊

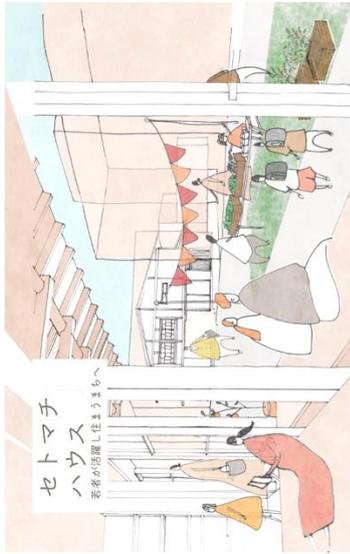


- ・ランバーコア — 21×915×1,825mm 3枚
- ・ランバーコア — 18×915×1,825mm 16枚
- ・ステン欄柱 P-17 — 0.8×15×936mm 60本
- ・ステン欄受器具 P-17 — 108個

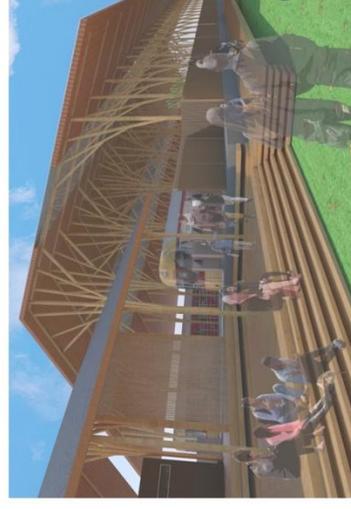
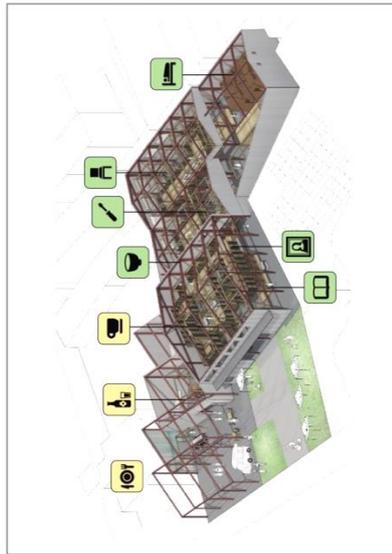
- ・ビス 770本
- ・ダボ 35個
- ・プライワックス



松千代館の学生によるDIYリノベーションの検討資料



空き家再生



学生の尾張瀬戸への提案

大正の旧旅館シェアハウスに住む6人



●旧千代館を改装したシェアハウスで暮らす学生たち。●食器は学生たちが作った。●学生が住居費の一つ「いづれも瀬戸のせと末広町商店街」

特報 旅館

瀬戸市のせと末広町商店街に残る大正建の旧旅館「松代館」。所有者が族らの思いきりで、二〇二二年九月から学生用シェアハウスに生まれ変わった。今春には、就職のため遠方へ引っ越した学生と入れ替わりで新たに四人が入居。現在、ここを暮らす愛知工業大(豊田市)の計六人は忙しい学生生活を送りながら、街を元気づけるために何が出来るかを模索している。

木造二階建ての同館は大旅館として繁盛したが、陶器産業の衰退に伴って九八年以降は空き家。商店街のイベントなどで使われたりして、大正の面影はほとんど消えてしまった。後継者が現れ、改修のきっかけは昨年六月、市内に住む所有者、鈴木茂子さん(80)の頭で、クラフトデザイナーの芳村さん(50)と東京都在住の枝さん(50)と東海在住の教員の研究には下宿希望(50)が、知り合いの建築家や都市計画などが専門の益尾孝祐・同大准教授と「再生コミュニティ」を敢取

瀬戸を元気に学生奮闘中

愛工大生 祭り参加「商店街に根張る」

ば学びの場になるのではなにか」といった声が出た。耐震補強などの改修費用はクラウドファンディングで約「百八十四万円を調達し、一階はギャラリー空間に、二階を開放し切りを改めて六つの個室と共用ルームを備えたシェアハウスとした。家賃は水道・電気代込みで月額一万五千〜一万八千円。当初から住むのは工学部一年生の平沼拓真さん(20)、工学部四年の山本楓さん(24)、工学部四年の山本楓さん(24)の二人。今春からは、同級生の吉田真都さん(20)、後藤由紀子さん(20)、原田千尋さん(20)が住んで、商店街の人のコミュニケーションが加わった。

学生たちは、同商店街振興組合の理事会に毎月出席。商店街の店主有志らが主催して開かれた昨年十月の「すえひろ勝手に猫まつり」では、子ども向けにサメ釣りの店を出すと、山本さんは「若い人が来た」と喜んでもらっているのを感じる。一方、卒業との両立は難しいという。平沼さんは「研究が忙し、なかなか自発的に動き出せないのが悔しい」と話す。組合の大塚徹太郎理事長は「若い根拠を生かして、街のためにやる独自の催しを企画してみたい。卒業後もに生かしてらうのもいい」と期待する。

学生たちは存在をもっと知ってもらうため、今後は土・日曜を中心に勉強会しながら一階部分に滞在しようと考えている。本棚を設け、商店街の人たちを中心に地域住民のたまり場にする」とも検討中だ。六人は「商店街に根を張って、一緒に活性化策を考えていけたら」と意気込んでい

なごや東版

アンソリウムⅡ
若松加津子
光栄会

ニュース情報は下記へ
社会部
052-231-1650-5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 平489-0809
瀬戸市公共通4-8
0561-42-3121 Fax 82-5316
日進通信部 平470-0113
日進市栄2-214
0561-74-2002 Fax 74-2003
春日井支局
0568-81-2036 Fax 81-2797
大山通信局
0568-61-2612 Fax 61-2613
小牧通信局
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は
読書センターへ
052-221-0800 Fax 221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
瀬戸市の中日新聞販売店へ

従来のかけこみず
保証 保証 保証
大法寺
お気軽にお話ししましょう
0567-28-7319
愛西市鶴巻町江崎10番地
【環境 大法寺】 建築

大正建築、住んで学んで

愛知の旧旅館、シェアハウスに

愛知県瀬戸市のせと末の面影が残る木造2階建
広町商店街の一角に、大正建築の旧旅館「松千代
正建築の旧旅館」がたたく。かつて学を学ぶ若者が入居し、



空き家問題を考える場

空き家問題など地域社会の課題を考える「学びの場」になっている。
1915年(大正4年)に馬車馬のひづめの保護具を直す「蹄鉄(ていてつ)屋」として創業。大正後期から昭和初期にかけて、陶磁器を運ぶ商人が泊まる旅館として栄えた。陶磁器産業の衰退に伴い、98年以降は空き家に。老朽化が進み、解体の危機にひんしていた。
家族の歴史や思い出が詰まった建物を取り壊したくないが、管理が難しく所有が負担になる。2021年、建物の所有者の娘でグラフィックデザイナーの鈴木芳枝さんが、愛知工業大で都市計画を研究する益尾孝祐准教授や知り合いの建築家らと「再生の会」を

「松千代館」の1階をレンタルスペースに改築し、学びの場として活用する(愛知県瀬戸市)

結成した。耐震補強や修繕のためにクラウドファンディングで約280万円を調達。旅館の構造を生かした同年9月、1階をギャラリーなどのレンタルスペースに、2階を学生用シェアハウスに改築した。学生が自主運営し、1階の利用料と2階の賃料を元手に事業化を目指す。現在は愛知工業大生9人が入居。高齢化が進む商店街の活動に参加したり、DIYで地域住民が集まる空間づくりをしたりする。大学のゼミで利用されることもある。家賃は電気・水道代込みで月1万8千円ほど。大学にも近く、学生にとってついで。住人の工学研究科2年の平岩拓真さんは「地域の方と関わる事ができるのは貴重な経験」と笑顔を見せる。鈴木さんは「建物は使われないと残せない。今後活動を広げ、さまざまな年代の人が学べる場所にしていきたい」と話している。

学生カフェ 公園に元気



紅葉を楽しみながら飲食を楽しめるスペース。テーブルは手作り=いずれも瀬戸市岩屋町で

瀬戸・岩屋堂

夏の避暑地や紅葉の名所として知られる瀬戸市岩屋町の岩屋堂公園で、愛知工業大（豊田市）の学生が運営するカフェが注目を集めている。新たに「岩屋堂プロジェクト」の一環。次回の営業は、二十六、二十七日の二日間を予定している。（加藤慎也）

カフェの前で来店を呼びかける藤木さんと加藤さん



公園西側の駐車場に近いカフェ「イロンデル」は、かつて「つばめ屋」の名前で来園者に飲食を提供していた。つばめ屋の廃業後、近年は名古屋市の会社が建物を借りて、夏や秋に断続的にカフェをオープンさせていた。

愛工大生20人 屋外に手作りテーブルも

学生カフェは今年三月、若い力を生かして公園を再生させてほしいと、会社から研究室に相談があったのがきっかけ。運営に携わるのは有志約二十人だ。自然の中で飲食を楽しんでもらおうと、手作りした八つのテーブルを、木々に囲まれた店舗裏のスペースに設置。焼き野菜カレーやゆずサイダーなどメニューも自分たちで考え、六、七月の隔週末やお盆などに営業してきた。

年内の営業は今月が最後で、紅葉を楽しみながら体を温めてもらおうと、日替わりスープとパンのセット（六百円）のほか、ハンドドリップコーヒー（五百円）などを販売する。店を開けた十一、二十日は一日当たり三十人ほどが訪れたという。

中心メンバーで住居デザイン専攻の四年生、藤木由子さん（三）と加藤直さん（三）の二人は卒業研究で、他の地域の学生カフェと比較したり、地域との関わり方について考察を深めたりする予定だ。加藤さんは「学生にとっても来園者にとっても新しい空間ができた」と充実感でいっぱい。藤木さんは「岩屋堂を知ってもらおうきっかけになれば」と期待する。営業は午前十一時～午後四時。

2022.11.22 中日新聞朝刊なごや東版12面記事利用申請許諾済み

新聞掲載 中日新聞 2022年11月22日